



フリマARで動画をチェック!

▲悪魔や邪気を払いながら歩く天狗。「天狗が転ぶと火事がおこる」という言い伝えは今でも残っています。



▲毎年100名以上の子どもたちが参加。みんなで祭りを作り上げる体験は感動ものです!



▶60年以上前に担がれた金山みこし。再び担げる日を地域の人たちは夢見しています。

写真が動く! フリマAR 使用方法

- がついた対象写真にカメラをかざすとスキャンがはじまります。
- ※写真の向きに併せてカメラをかざしてください
- スキャンに成功すると動画がスタート!



行列」では女兒の応募も受け付けています。市外在住の子ともや園児も参加でき、衣装も借りられるそう。より多くの子どもたちに祭りの楽しさを知ってほしいと、同会では参加を呼びかけています。

大人たちの本気が伝播 祭りが生む世代間交流

大名行列のなかでも重要な役どころである天狗とやっこは、本番前に練習があります。指導するのは、何十年と続くプロ集団(三条道祖神昭三同業会と三条先供組合)。天狗の歩き方や、やっこの道具を持ちながらの動きなど、ときには厳しい声とつぶよと真剣に指導しています。「大人たちは祭りに情熱をそいでいるので、練習は本気ですよ」と坂井さん。大人たちの本気を受けて、子どもたちも必死についていきます。しかし、練習が終わると一変、指導者と子どもたちの雰囲気は和やかなものとなり、鬼ご



巻頭特集

伝統の祭りを感じる 地域の誇り

子ども大名行列

「わっしょい! わっしょい!」のかけ声とともにみこしを背負い、天狗ややっこが堂々と歩く大名行列。実は参加者全員が小学生までの子どもたちなんです! 今回は、地域での思い出と誇りを子どもたちに残したいという想いから始まった、三条の恒例行事をご紹介します。

こをして遊んだりすることもあるそう。今の時代、地域の大人と関わる機会はありません。祭りは世代間交流の場でもあるんです」と坂井さんは話します。また、子どもたち同士もすぐに仲よくなり、学区を越えた友だち作りの場ともなっているようです。

そして本番では「祭りを盛り上げよう」という全員の想いが集結します。子どもたちは衣装を着て引き締まった表情に変わり、練習のとき厳しかった大人たちは、子どもたちに「がんばれ!」と励ましの声をかけ続けます。行列は三条八幡宮からスタートして三条鍛冶道場に到着、再び八幡宮に戻り「舞込」を模して拝殿を2周まわり、最後は三本締めで終了。行列をやり遂げた後の子どもたちの表情は清々しく、ひとまわり成長したように見えると坂井さんは語ります。

金物のまちの誇りをみこしに込める

三条市は全国に誇る金物のまち。大名行列でみこしを担ぐということは、金物の神様を担いで地域を背負うということでもあります。現在、子ども大名行列で担いでいるのは小さなサイズの良寛みこしです。しかし、三条市には1954年に作られた歴史ある「金山みこし」があり、「私たち

天狗、やっこ、囃子方、良寛みこし、全ての役どころを子どもたちが担います。衣装を身に付け、きりっとした表情で臨む姿は真剣そのもの。園児から小学校高学年まで、全員が心一つにして祭りを盛り上げます。



三条歴史文化担い手育成会 会長 坂井勇資さん

の夢は金山みこしを担いでもらうことなんです」と坂井さん。このみこしは子どもサイズながら重いため、小学校高学年の子どもたち30人以上の参加が必要で、初めて担ぐことができるという夢です。その夢まではあと一歩。「金山みこしには歴史と文化、そして金物のまち三条ならではの魂が宿っています。子どもたちにはみこしを担ぐことで、このまちを誇らしく感じてほしいんです」と坂井さんは強い想いを語ります。

また、「三条子ども大名行列」は地域のさまざまな団体に支えられています。運営や練習指導はもちろん、三条子ども大名行列奉賛会からは衣装や道具など多くの寄付が寄せられ、行事が成り立っているそうです。「祭りの語源は、ものごとを束ねる。その通り、地域のさまざまな思いが束ねられて初めて大名行列ができます。支えてくださるみなさんには感謝の気持ちでいっぱいです」と坂井さん。地元の熱い想いは子どもたちの気合いをみなぎらせ、祭りはさらに

三条子ども大名行列 参加者募集!

9/19(月・祝) 敬老の日 会場 八幡宮→えんがわ(予定)

時間 集合時間 8:30 行列入場 10:00 解散 13:00(予定)

募集対象 ●小学4~6年生 50名 ●小学1~3年生 30名
 ※園児も歓迎 ※配役は先着順 ※てんぐ役、やっこ役は事前の練習あり ※定員になり次第締切ります

【問合せ】三条歴史文化担い手育成会事務局(三条市市民活動支援センター内) 三条市東本成寺2-1 三条市総合福祉センター 1F [TEL・FAX]0256-34-8960(月~金 9:00~18:00)

子ども版だけど本格的! 歴史ある大名行列を再現

「三条子ども大名行列」は全国でもめずらしい子どもだけの大名行列。毎年5月の「三条祭り」で行われる大名行列の子ども版で、今年6年目を迎えます。子ども版といえども、内容は本格的。迫力のパフォーマーを演じるやっこを先頭に、高下駄をはいて歩く天狗、白丁やはっぴを着て担ぐ良寛みこし、笛や太鼓で盛り上げる囃子方(はやしかた)と、100人以上の大編成で練り歩きます。ルートの一部は車両通行止めとなり、まさに大人版の大名行列さながらです。

「子どもたちには、本物を体験してほしいんです」。こう語るのは三条歴史文化担い手育成会の坂井勇資さん。この土地で育ってきた「まち」の中で、昔から祭りには特別な思い入れをもっています。「天狗の面は大人版に比べても見劣りしないものですし、やっこの持つ長柄や先箱などの道具も本格的です。もちろん行列が始まる前にお払いもします。見物客のなかには、行列を見、手を合わせてくれる方もいるんです」と坂井さん。子どもたちだけの大名行列でも神聖な行事として、まちの人たちが見守っていると話します。

また、本来の行列に女性は加わらないのですが、「三条子ども大名エネルギーで満ちあふれたものとなっているようです。今年も9月19日(月)敬老の日には『三条子ども大名行列』は開催されます。事前練習のないみこしのほか、行列を先導するやっこも、まだまだ参加者を受け付けているとのこと。小学生までのお子さんを持つ保護者のみなさん、この秋はお子さんに祭りで伝統文化を体験させてみてはいかがでしょうか?